

## 『池江 璃花子の復活について』



先日、池江 璃花子さんが東京オリンピックへの出場権を獲得したニュースに、皆さんは驚かれたことと思います。

池江さんは世界のトップスイマーで、東京オリンピックでのメダルは確実と言われていました。その彼女が、2年前に白血病と診断され、突然にオリンピック候補から消えてしまったのですから、日本国民の驚きと、悲嘆は大変なものでした。

その後、闘病生活のニュースを見るたびに、私は「彼女は必ず復活する」と確信していました。

現在、日本の小児悪性腫瘍の治療レベルは世界のトップを走っています。

成人の悪性腫瘍は、胃がん、大腸がん、肺がんが三大がんとして多くを占めていますが、小児と若年者の最も頻度の高い悪性腫瘍は昔から白血病、脳神経腫瘍と悪性リンパ腫が三大がんと言われています。私が、小児科医になった 1980 年代の急性リンパ性白血病の生存率はせいぜい 50%程度でしたが、現在の生存率は 90%以上でほとんど死亡することはありません。

池江さんが、カンバックできたのは奇跡でもなんでもなく現在医学の常識なのです。

しかし、こんなに早く復帰できたのは彼女の努力のたまものだと思います。

このように小児悪性腫瘍の生存率が飛躍的に上昇した理由には二つあります。

一つは分子標的療法という治療法が開発されたおかげです。昔の血液がんの治療法は、B29 からの大空襲と同じで、全てを焼き尽くすような治療法でした、今はミサイルのピンポイント爆撃で戦車だけを叩き壊す治療法です。分子標的療法とは、がん細胞が持つ特異的な性質を分子レベルで捉えて、それを標的にして効率的に作用するように作られた薬剤を使った治療法です。

がん細胞だけを狙って作用するため、副作用が少なく抑えて治療効果を最大限に高めることができます。私が大学病院にいた 30 年前、最も予後の悪い白血病として慢性骨髄性白血病がありました。生存率は 1 割もなかったと思います。

それが今では、分子標的療法のチロシンキナーゼ阻害薬のおかげで 100%生存できるようになったのです。

夢のような話しが現実となったのです。これからも続々と分子標的薬は開発されていきます。

もう一つの、生存率を上げた治療法は、造血細胞移植つまり骨髄移植です。

現在、少子化による血縁ドナーの減少で、骨髄移植が少なくなっていたのですが、HLAの合っていないドナーからも移植ができるようになったのです。2008 年にアメリカで開発された方法で広くドナーを集めることができるようになりました。

これにより、再発した白血病や難治性の白血病の治療法が確立されたのです。

池江 璃花子さんのオリンピックでの活躍はきっと多くの小児悪性腫瘍の治療で苦しんでいる子どもたちの希望になると思います。

ぜひメダルを取ってほしいですね。